

核融合科学技術委員会における第 1 2 期の活動について（案）

令和 5 年 7 月 24 日
研究計画・評価分科会
核融合科学技術委員会

○第 6 期科学技術・イノベーション基本計画に対応する取組について

(1) 各部会・委員会に関する研究及び開発等に関するもの

本委員会では、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画の第 2 章 1.

(2) (c)②（下欄参照）に対応し、ITER 計画や BA 活動の推進方策、技術の多様性確保の観点からの学術研究や革新的概念の研究など、核融合研究開発を着実に推進する方策について議論する。特に、フュージョンエネルギー・イノベーション戦略（令和 5 年 4 月 14 日 統合イノベーション戦略推進会議）の策定を受けた方策について議論する。また、「原型炉開発に向けたアクションプラン」や「原型炉研究開発ロードマップ」の見直し、核融合研究開発に向けて必要な検討などを行う。

第 2 章 Society 5.0 の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

1. 国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革

(2) 地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進

(c) 具体的な取組

② 多様なエネルギー源の活用等のための研究開発・実証等の推進

現在見直しに向けた議論が進められている「エネルギー基本計画」等を踏まえ、省エネルギー、再生可能エネルギー、原子力、核融合等に関する必要な研究開発を実証、国際協力を進める。

(2) 自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」の融合である「総合知」の創出・活用に向けたもの

本委員会では、分野を超えた専門家の知を結集し、これまでも核融合に関するアウトリーチ活動などを推進してきた。こうした活動を今期も継続するとともに、様々なステークホルダーとの対話を広げることで、核融合の社会的価値と社会受容性の向上を図るべく、分野を超えた専門家による議論を進めていく。

また、核融合エネルギー開発の推進に向けた人材育成にあたっては、核融合分野に加えて、他分野からの参画を促し、人材を確保することが重要である。このため、人文社会系も含めた様々な連携を通して、複合的視点を持った多様な人材から成る炉設計体制を構築する。